

1. 単元名「自分の意見を読み手に伝わるように投稿しよう！」

学習材「インターネットの投稿を読み比べよう」(東京書籍6年)

2. 単元の目標

○インターネットの投稿について、読み手を説得するための様々な表現の工夫に気付き、また情報と情報の関係づけの仕方を理解し、使うことができる。 <知識及び技能>

○書き手が自分の考えをより適切に伝えるために、どのような理由や事例を用いることで説得力を高めようとしているのかについて考えることができる。

○読み手を説得するために、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

<思考力、判断力、表現力等>

○見通しをもって、積極的に説得の工夫について考えて、文章を読み比べ、自分の考えを理由や事例を用いて書き表そうとしている。 <学びに向かう力、人間性等>

3. 単元について

本学級の児童は、「めざせ！ 箭！ 雑草！ サボテン！」を学級目標に決め、何事にも粘り強く取り組み、クラスみんなで成長していくことをめざしている。しかし、楽な方に流されてしまうことが多く、じっくり考えることを避けがちである。「話すこと」については、進んで発表する児童は少数であるが、自分の考えをもっていないわけではなく、伝えることに苦手意識がある。「読むこと」については、物語文「風切るつばさ」の学習で、一文字の違いで意味が大きく変わることに関心し、表現の工夫に興味を持ち始めている。「書くこと」については、意見、理由を書くことはできるが、具体的な事例と自分の考えをつなげて主張するには至っていない児童が多い。

本単元『自分の意見を読み手に伝わるように投稿しよう！』は、自分の考え・意見について、相手に伝わるように理由付けをし、表現の工夫をして書くことをねらいとしている。自分達の身近にあるインターネットの投稿を終末に設定することで、自分の考えを伝えるための工夫を見つけようとする意欲をもち、限られた字数で効率よく書くことのよさを味わうことが期待できる。

本教材「インターネットの投稿を読み比べよう」は、スポーツの在り方についてインターネットで議論をしている想定の記事である。一つ一つの文章は短く、主張が異なる筆者が、それぞれどのような意見をもっているのか、また、それを伝えるためにどんな理由付けや表現の工夫をしているのかを比べて読み取りやすい。また、それぞれの筆者が他者の意見に対し同意したり反論したりしているので、お互いの意見を理解する必然性があり、内容を読み取る意欲付けにもなっている。読み取った説得するための工夫を使って、他者の意見を聞いて自分の考えを述べるような話し合いへ発展する学習へつながる教材である。

指導に当たって、まず、第一次では、事前に行ったアンケートを基にインターネットの投稿についての経験を問う。実際に投稿と言う形ではしていなくても、メールなどでの連絡について触れ、自分の身近にある話題であることに気付かせたい。そして、文章だけなので誤解が起りやすく、よく聞く「炎上」にならないために、どうしたら相手に自分の考えが伝わるのかの工夫を見付け、自分達も投稿してみたいという意欲をもたせるとともに、学習の見通しが持てるようにしたい。また、納得するとはどういうことかを問い、「なるほど。」と思えるかどうかであることを共通理解しておく。第2次では、11個の投稿文を読み比べる。投稿1から5までと6から11までに分けることで、前半と後半の説得の工夫の違いを比べることができるようにする。また、それぞれの投稿文の立場を確かめ、自分が納得できるかどうかを明らかにすることで、納

得できる理由を考えていく。筆者の主張や、その理由に線を引いたり、考えた理由を本文に直接書き込んだりすることで、内容の理解を深め、自分の考えをもつことができるようにする。本時では、見付けた「共感を生む説得のポイント」をまとめていく。まず、一番自分が納得した投稿について、その理由を付箋に書き出すことで、改めて自分の考えを明確にできるようにする。次に、グループで「共感を生む説得のポイント」として意見をまとめ、全体で共有できるように掲示する。その際、納得した理由を具体的に出し合うために、一番を選ぶときにどの投稿と迷ったのか、その理由も考えてみるように問いかける。出た工夫を内容ごとにグループ化してまとめていくことで、視覚的にも理解を深めるようにする。第3次では、共有した「共感を生む説得のポイント」を活用し、自分の立場を明らかにし、投稿文を書く。そして、書いた文を読み合うことで、具体的な事例を入れたり、書き表し方を工夫したりして、自分の意見が伝わるような投稿文に近づけたことを実感できるようにしたい。最後に、投稿文を書くことで自分についての力を振り返らせることで、これからの生活や今後の討論の学習などへ活用していこうという意欲を高めていきたい。

4. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○読み手を説得するための様々な表現の工夫に気付いている。</p> <p>○情報と情報との関係付けの仕方を理解し、使っている。</p>	<p>○自分の考えをより適切に伝えるために、どのような理由や事例を用いることで説得力を高めることにつながるのかについて考えている。</p> <p>○自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。</p>	<p>○見通しをもって、積極的に説得の工夫について考えて文章を読み比べようとしている。</p> <p>○自分の考えを理由や事例を用いて書き表そうとしている。</p>

5. 単元の計画（全7時間）

次	時	○学習活動 “予想される児童の気付き”	指導上の留意点	主な評価基準
第 一 次	1	<p>○インターネットの議論への参加について考える。</p> <p>“読んだことはあるけど、参加したことはないな。”</p> <p>“炎上ってよく聞くから怖いな。”</p> <p>“投稿の工夫があるなら、見つけたいな。”</p> <p>“気を付けないといけないことは何かな。”</p>	<p>・事前にアンケートを取り、その結果をもとに話し合うことで、自分たちに身近なことであることに気付かせる。</p>	<p>・インターネットの投稿に関心を持ち、知っていることや気付いたことなどを発表しようとしている。</p> <p style="text-align: right;"><主></p>
		<p style="text-align: center; border: 2px solid black; padding: 5px;">自分の意見を読み手に伝わるように投稿しよう！</p> <p>“この資料、おもしろそうやな。”</p> <p>“説得の工夫を見つけて、それを使って投稿文を書こう。”</p> <p>“説得の工夫って、「なるほど！」って思えるところだね。”</p>	<p>・最終的に自分が投稿文を書くことがゴールであることを確認する。</p> <p>・「説得」という言葉の意味を問うことで、「説得」の意味を共通理解し、見通しをもって活動できるようにする。</p>	<p>・見通しをもって活動しようとしている。</p> <p style="text-align: right;">〈思・判・表〉</p>

	第二次	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">「共感を生む説得のポイント」をみつけよう。</p> <p>2 ○投稿1から投稿5までを読み比べて、説得の工夫や効果について考える。 “筆者の主張と理由と、分かれているね。” “投稿5は間いかけで終わっているよ。”</p> <p>4 ○投稿6から投稿11までを読み比べて、説得の工夫や効果について考える。 “前よりも説得の工夫があるように思う。” “自分の経験よりも、有名な人の話の方が説得力があるかもしれないね。”</p> <p>5 ○自分が最も共感した投稿について、納得した理由について考える。 “一番共感できる投稿は…”</p> <p>6 ○納得した理由について交流し、説得力が高い工夫や効果をまとめる。(本時) “具体的に数字がある方がより納得できます。” “始めと終わりに言いたいことが書いてあると分かりやすいです。”</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">「共感を生む説得のポイント」をみつけよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文を印刷して、直接書きこめるようにしておく。 ・説得の工夫を見つけにくい児童のために、まず、それぞれの投稿の立場を確認する。 ・それぞれの投稿の主張や説得の工夫を見つけて線を引くようにし、内容の理解につなげる。 ・それぞれの投稿について納得できるかどうか考え、その理由を書く。 ・自分が一番納得した理由を明らかにすることで、どのような理由や事例が説得するために効果的かを見つける。 ・「共感を生む説得のポイント」が明らかになるように、グループ分けして黒板にまとめるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・投稿を読み比べ、それぞれの主張を読み取っている。 <li style="text-align: right;"><知・技> ・それぞれの投稿の説得の工夫を見つけている。 <li style="text-align: right;"><知・技> ・自分の考えをより適切に伝えるために、どのような理由や事例を用いることで説得力を高めることにつながるのかについて考えることができる。 <li style="text-align: right;"><思・判・表>
	第三次	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">続きを投稿してみよう</p> <p>7 ○投稿文を書く。 “「共感を生む説得のポイント」のどれを使おうかな。” “自分の経験を使って理由を書いてみよう。” “まず、自分の立場を書くと分かりやすいね。”</p> <p>8 ○友だち同士で読み合い、感想を交流する。 “同じ意見だけど、説得のポイントを使って表現を工夫すると、なるほどって思うね。”</p> <p>○自分で投稿文を書いた感想を交流し、単体全体の振り返りを書く。 “これからもみんなで学習してわかったポイントを使って書いてみたいな。”</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">続きを投稿してみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えが伝わるように、具体的に事例を入れるなど表現を工夫するために、前時にまとめた「共感を生む説得のポイント」に立ち返るようにする。 ・掲示している「共感を生む説得のポイント」を見て、友達の立場と表現の工夫に注意して読み、よいところを見付けられるようにする。 ・投稿文を書くことで自分についての力を振り返らせることで、これからの生活や学習に生かそうとする意欲をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学んだことを使って、自分の考えを理由や事例を用いて書き表そうとしている。<主>

6. 本時の学習（6／8）

(1) 目標

○自分が納得した理由を出し合うことで、「共感を生む説得のポイント」をまとめる。

(2) 展開

児童の活動 ・予想される児童の気付き	○指導上の留意点 ☆評価規準	備考
1. 前時の学習を振り返り、本時の学習の見通しをもつ。	○学習課題や自己評価基準を設定し、主体的に学べるようにする。 ○前時までの学習について、掲示物を使って想起させる。	<全体> 掲示物
どのような「共感を生む説得のポイント」があるかな		
2. 一番自分が共感した投稿について、自分が納得した理由を出し合う。 ・自分の体験を言っているのだから、共感できました。 ・具体的に例を挙げていると理由が分かりやすいね。 ・強い言い方だと、ちょっと共感しにくいかもしれないね。 3. 納得したポイントについて話し合う。 ・やっぱり、有名人の言葉が入っていると、説得力があると思います。 ・自分の体験は、具体的な理由だと思うけど、極端すぎるのは共感できないな。 ・「確かに」で人の意見を受け止めてから、自分の意見を言っているのが、説得力があるように思うな。 ・同じような意見だけど、こちらは、まとめる言い方をしているので、共感できるよ。 4. 学習を振り返る。 ・次は、今日学習したことを使って、自分で投稿文を書くぞ。	○自分が納得した理由を付箋に書きこみワークシートに貼ることで、いつでも振り返ることができるようにする。 ○自分とは異なる立場の投稿でも、共感できる理由について話し合い、「共感を生む説得のポイント」を見付けられるようにする。 ○全体で内容を確認できるように、グループで意見をまとめ、短冊を黒板に貼っていく。 ○「共感を生む説得のポイント」が明らかになるように、短冊をグループ分けして黒板にまとめるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 納得した理由に気付かせるために、「1番を選ぶときに、迷った投稿はどれですか。」と問う。 </div> ☆自分が納得した理由を出し合うことで、「共感を生む説得のポイント」をまとめることができる。 ○次時には、「共感を生む説得のポイント」を使って自分の考えを投稿文として書くことを学習計画で確認し、今後の意欲付けをする。	<個人> ワークシート 付箋 <グループ> ワークシート 短冊 <全体> ↓ ↑ <グループ>